

# 田尻だより

平成 22 年

3月 号

Vol. 84

次の田尻便りは  
4月1日発行予定です

弥生三月。いよいよ  
平成22年度産米の米作

りが始まります。

とはいえ、今年は混

乱状態からのスタート。

件くだんの戸別所得補償制度

が始まったからです。

今年の雁音農産は、

この政策内容の説明か

ら始まりました。ピン

とこないのは、消費者

も農家も同じなのです。

私が所属している「大崎自然界部  
ニコニコ事業班」では、米袋を  
利用してエコバッグを作って  
います。



郡除の仙台で大ヒット  
(700円)  
米袋をエコバッグに加工  
しているのは、地元の知的  
障がい者の方たち。

〔試行錯誤の農政〕  
米減反政策(生産調整)を作らないことに

補助金を出した自民党、

作物自給率向上を作ることに補助

金を出す民主党。担農地集約型い

手農家(大規模)を育てようとし

た自民党と零細農家を

救おうとする民主党。

私見を述べると、ど

ちらも大事。消費国内自給率者を

直接支える担い手農家

と、農家の70%を占め

る1ヘクタール以下の自給的零

細農家。現状、どちら

が倒れても日本の農村

は崩壊するでしょう。

病気に特効薬はなく、  
薬は自分自身の治癒力  
を補佐するもの。環境  
問題も、人が地球の持  
つ自然治癒力にどれだ  
け手を添えられるかで  
す。農政も同じこと。

特効薬  
政策をいくら議論し

ても、結局は農家自分自身と消

費者に治す意志ちからがなけ

れば無意味です。今は、

農政の試行錯誤の中で

少しでも農業について

考えている段階。日本

農業はまだ、門出スタートラインにす

ら立てていないのです。

エコバッグ作りは障がい者の方々の所得向上が目的ですが、



米袋を  
きれいに  
とろから。  
農家や消費者、商店街の皆の  
夢をのせてできています。  
米(マイ)バッグは、いろんな人の  
輪でできているのです。

## 米 暦 ~こめごよみ~

~2月1日 取組農家の地区別説明  
会を実施しました。

2月2日、5日、9日、16日、19日、23日、  
26日 米検査をしました。



(農閑期のため、農作業はお休みです)

## 嫁日記

3月を迎え、田尻さくら高校での講師1年目が終わりました。型破りな私が目標としたのは、「学ぶ喜び」と「生きる力」を伝えること。

私自身は中学でも高校でも不登校の時期がありました。「無意味」という苦痛。学校に行く意義を必死に模索し、

何とか理由づけて自分を学校へ向かわせて卒業しました。大学は逆に、卒業単位の倍以上をとって卒業しました。「意味のある勉強」に心から喜びを感じました。

「面白かった」「こんな自分でも変わった」という生徒の言葉に救われたのは、まぎれもなく高校時代の自分自身。うん、来年も頑張るぞ。

米袋を利用したエコバッグ「米バッグ」は、障がい者の方々の所得向上を目指しています。営利目的の製造販売はご遠慮下さい。 「人の輪」を重視し、収益は次世代の子供達の環境教育のために役立てています。

絵と文 / 小野寺ひかる